

Japanese Research Society for Early Esophageal Cancer and Chromoendoscopy

第 84 回食道色素研究会

プログラム・抄録集

主 題

扁平上皮内腫瘍・上皮内癌
-経過観察できた小病変の検討-

事前検討会

日 時：2022年7月22日（金）13:00～17:00
会 場：Web 開催

食道色素研究会

日 時：2022年7月23日（土）9:00～15:10
会 場：Web 開催

共 催：食 道 色 素 研 究 会

当番世話人：東京医科歯科大学 人体病理学分野
伊藤 崇

8 食道上皮内腫瘍の3例

東京医科歯科大学 消化管外科

川田研郎、坂野正佳、山口和哉、
藤原尚志、春木茂男、徳永正則、
絹笠祐介

東京医科歯科大学 人体病理学

伊藤 崇、大橋健一

藤沢えがしらクリニック

江頭秀人

症例 1) 20 代男性。既往歴に 10 代で再生不良性貧血、骨髄移植、悪性リンパ腫、20 代で高血圧性脳出血の既往あり。腹痛精査のために行った EGD にて Mt 後壁に異常血管増生を伴う 1/4 周性の発赤を指摘される。扁平上皮癌を疑い生検施行、*atypical parabasal cell hyperplasia* の診断、2 カ月後に再検するも同様の所見であった。当科に紹介され初診から 5 カ月後、ESD を行った。病理組織学的には 12×9mm のヨード淡染域に一致して上皮深層に限局したごく軽度の異型を認め、*squamous intraepithelial neoplasia* と診断された。

症例 2) 80 代男性、胃癌術後の経過観察の EGD で 3 年半前に Lt 右壁に 1/4 周性のヨード不染指摘、生検で異型上皮の診断。その 1 年後の生検では「腫瘍性病変だが SIN か SCC かの鑑別が困難」との診断。その後およそ半年置きに 2 年半経過観察するも、生検の診断は同様であった。拡大観察で血管の異型がやや目立つようになり、ESD を予定している。

症例 3) 70 代男性。検診の EGD にて Lt 右壁に大きさ 1cm 程度の淡い発赤あり、NBI にて *Brownish area* を呈し、生検にて *squamous intraepithelial neoplasia* と診断、当科に紹介された。NBI 拡大観察で JES-TYPE B1 血管認めるも、生検で SCC の診断がつかず、半年後、1 年後に再検したが、SIN 疑いで経過観察中である。